

第1回: ウィトゲンシュタインと言語ゲーム

ルートヴィヒ・ヨーゼフ・ヨーハン・ウィトゲンシュタイン（独: Ludwig Josef Johann Wittgenstein 1889–1951）はオーストリア・ウィーン出身の哲学者。言語哲学、分析哲学に強い影響を与えた。ケンブリッジ大学のバートランド・ラッセル（Bertrand Russell, 1872–1970）のもとで哲学を学ぶ。ドイツにて 1921 年『論理哲学論考』^{*1}を公表。哲学にはじめて論理の概念を取り入れる。



Ludwig
Wittgenstein
1889–1951

1 言語ゲーム

言語ゲーム（独 Sprachspiel, 英 language game 1934 年頃）はウィトゲンシュタインによって、紹介された言語学上の概念である。

- 問1 哲学者ウィトゲンシュタインが言う「言語ゲーム」の「ゲーム」とはどんなものだろうか。どんなものかを想像し、話し合え。
- 問2 理系の授業で「理論や数式を説明する時のことば」と日常の生活で「おしゃべりをする時のことば」とはどんな点が違うだろうか。例を示して、両者の違いについて話し合え。
- 問3 両者の内、どちらのほうがより言語の本質だと思うかを話し合え。

2 家族的類似

家族的類似（かぞくてきるいじ、family resemblance）とは、言語哲学・認知言語学上の概念で、語の意味を部分的な共通性によって結びついた集合体とみなす考え方である。

家族的類似

Aさんは、「机」とは何であるかがわかっている。あなたは、「机」が何であるかがわからない。

そこで、Aさんは、いろんな机をつぎからつぎへもってきて、あなたに見せてくれる。これも「机」。これも「机」。どの机も、ちょっとずつ違っている。形が違う。脚の数が違う。大きさが違う。色が違う。材料が違う。……。でも全体として、どこか似ている。それを順番に見ていくうちに、あなたはやがて、「机」が何であるのかがわかる。そして「わかった!」と叫ぶ。

いったん、わかってしまえば、もうそれ以上、机を持ってきてもらう必要はない。なぜ、わかったのか。それはわからない。とにかくわかった。では、机とは何か。説明できるとは限らないし、定義できるとは限らない。

橋爪 (2009: 118–9) を改変

- 問4 「机とは何か。説明できるとは限らない」と述べているが、「わかった」と理解できていながら、説明できるとは限らない、とはどういうことだろうか。
- 問5 いろいろな机を見せて、ウィトゲンシュタインは、それぞれが似ていることから「家族的類似」といった。「机」以外の例をあげてみよ。
- 問6 「机」を「意味」「ルール」「社会」「人間」「何か」…のように入れ替えて考えたとき、上の話はどういうことを意味しているのだろうか。
- 問7 「机」といわれているものを「エクツ」と呼ぶことに何か問題はあるか。問題がある場合には、どんな問題があるかを答えよ。問題がない場合には、「言語は恣意的である」ということとはどういう意味

*1 原題: Logisch-philosophische Abhandlung / Tractatus Logico — Philosophicus

かを考えよ（「恣意的」とは、すなわち、規則から行っていないこと、気まま思いつきであること）。

問8 「およそ語られうることは明晰に語られうる。そして、論じえないことについては、人は沈黙せねばならない」（ウィトゲンシュタイン 2003）と、なぜウィトゲンシュタインは述べているのだろうか。

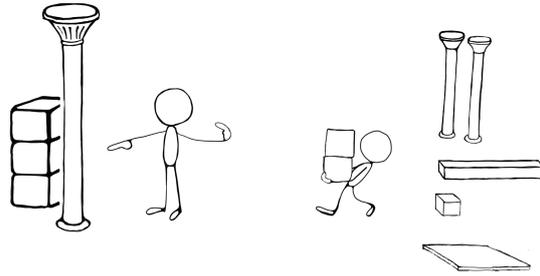
3 石工とその助手

次の文を読んで、以下の問いについて話し合え。

石工とその助手

2人が何かやっている。そこを私が通りかかる。
 何をやっているのだろう。しばらく様子を見ていたが、何をしているのかさっぱりわからない。
 1人（石工）がなにかどなると、もう1人（助手）が、あわてて何かを持っていく。
 また何かどなると、また何かを持っていく。ずっとみていると、だんだん、2人が何をしているのか、わかってくる。「ブロック」「柱」「タイル」「梁」の4種類の石材があること。2人は、石工とその助手で、石工が石材の名前（4つのどれか）をどなると助手がその石材を持っていくこと。2人はそうやって、何かを建築していること……。

橋爪 (2009: 122-3) を改変



問9 「私が通りかかった」とき、すでに「石工とその助手」のゲームはどのような状態であったか。

問10 「そこを私が通りかかる」を「そこで私が生まれる」に言い換えるとゲームは何に似ているか。

問11 「2人の4語、ゲーム」を「N人n語、ゲーム」として考えるとゲームは何に似ているか。

問12 「N人n語、ゲーム」を「N人のn個メッセージ、ゲーム」として考えるとゲームは何に似ているか。

問13 ウィトゲンシュタインは「言語は公共のもの」というが、これはどういう意味か。

4 ウィトゲンシュタインと言語学

問14 ウィトゲンシュタインは哲学者である。ウィトゲンシュタインと言語学の関係をこじつけてみよ。

5 もっと知るには

翻訳書として「論理哲学論考（岩波文庫）」（ウィトゲンシュタイン 2003）、「ウィトゲンシュタイン・セレクション（平凡社ライブラリー）」（ウィトゲンシュタイン 2000）などがある。入門書としては、「ウィトゲンシュタイン入門」（ちくま新書）（永井 1995）、「はじめての言語ゲーム（講談社現代新書）」（橋爪 2009）などがある。いずれも新書、文庫判で安価で入手できる。ウィトゲンシュタイン全集のなかでは、第8巻（ウィトゲンシュタイン 1976）に「言語ゲーム」に相当する箇所がある。

参考文献

- 橋爪大三郎 (2009) 『はじめての言語ゲーム（講談社現代新書）』, 講談社.
 永井均 (1995) 『ウィトゲンシュタイン入門（ちくま新書）』, 筑摩書房.
 ウィトゲンシュタインルートウィヒ (1976) 『ウィトゲンシュタイン全集 8』, 大修館書店.
 —— (2000) 『ウィトゲンシュタイン・セレクション（平凡社ライブラリー）』, 平凡社.
 —— (2003) 『論理哲学論考（岩波文庫）』, 岩波書店.